

令和4年1月21日

議会報告・意見交換会報告書

代表者 水戸 保

記 録 武田 正二

班 員 狩野 佳和

〃 三宅 和広

〃 古澤 義弘

議会報告・意見交換会を開催したので、その概要を下記のとおり、報告します。

記

1 日 時	令和3年11月19日（金）19時00分～20時10分	
2 会 場	市立干布公民館	
3 欠 席 議 員	なし	
4 参 加 者 数	2名（男性）	
5 報 告 内 容	令和3年度の議会活動状況など	
6 意見交換の内容 （テーマ） 議員定数・議員報酬 について	出された意見等	当日の回答
	市民 議会改革の中で、定数削減・報酬だけでの話となっているが何故か。議会改革とは何か。	議員 前議長からの諮問は、議会改革という名目で、議員定数・議員報酬について検討してほしいということになった。 定数・報酬以外のことについては、議会運営委員会で検討することとして、現在進めている。

	<p>市民</p> <p>議会改革が、定数削減であるという結論ありきの話ではおかしいのではないか。</p> <p>定数削減した分で報酬を上げるなどの話もおかしい。</p> <p>人口・財政的に遜色ない天童市とすれば、庄内町・朝日町と同じような考えで、ただ定数削減というような一般大衆に受けることではなく、多くの若者が立候補できるような議会づくりをすることが、本来の議会改革ではないか。</p>	<p>議員</p> <p>議員定数・報酬については、前議長が議長選挙での所信表明で公約として挙げたものであり、議会に諮問したものである。</p> <p>個人的には、市民に人身御供のように定数削減ありきではなく、定数削減と現状維持等について報酬を含め、検討をすべきで、その根拠を示すべきと考える。言われる通りである。</p> <p>報酬については、何も保証もないことから、現状では若い人が、将来議員として生活をするに苦勞すると思う。</p>
	<p>市民</p> <p>前回 5 月の干布での議会報告会は、今回より多くの人に参加した。その時、定数削減と報酬について意見が出されたが、参加者全員が定数についてはそのまま、報酬についてはそのままか、増やしても良いのではという意見が出たと記憶している。</p> <p>そんな中で、議員定数を削減するという中間報告を出したのが分からない。</p> <p>議員を天童市全体で考えなければならぬが、地域からの代表者になっている部分もあり、多様性・少数意見の取り上げという観点からも定数を減らすべきではないと思う。</p> <p>報酬については、若い人を考えれば、ある程度は考えても良いと思う。</p>	<p>議員</p> <p>前議長からの諮問に応えるべき検討をしてきたが、そう簡単に結論は出ないことから、中間報告として提出した。</p> <p>今度の改選期に考えている人もいようで、その前までには結論を出したいと考えている。</p>

	<p>市民</p> <p>前回の市議会選挙で定数割れの可能性も出て、今、議員定数削減の話になったのではないか。定数を削減しても、その問題は解決しないと思う。</p> <p>もっと別の改革が必要ではないか。</p>	<p>議員</p> <p>私たち会派は、定数を削減する理由として、選挙で倍率が上がれば、議員の質が上がり、魅力的な議員活動に結び付き、市民から理解されるようになり、更に議員への立候補者が多く出るような好循環となるきっかけになると考えている。</p> <p>報酬については、若い人たちが選挙に出やすい報酬等にすれば、候補者も増え、好循環ができると考えている。</p>
<p>議会・議員への意見、提言、要望等</p>	<p>市民</p> <p>干布公民館建設について、来年の令和 4 年度に改築されるが、問題だと思ったことがある。</p> <p>通常、一年前の令和 3 年に基本設計をして、実施設計となると思っていたが、2 年前の令和 2 年に、地区民の要望を聞いて A 社による仮の設計をやり、それは基本設計の補助業務みたいなものです。という生涯学習課の</p>	<p>議員</p> <p>参考に、天童市の議員定数は、昭和 56 年に法定定数 36 人に対し 30 人、昭和 62 年は 26 人、平成 19 年に 22 人となった。</p> <p>平成 20 年に法改正で定数の上限がなくなった。</p> <p>平成 23 年に 2 人削減の提案があったが否決となり、現在の 22 人となっている。</p> <p>議員</p> <p>令和 2 年度の決算特別委員会で干布公民館の予備設計に関しては、何故行ったのか、おかしいのではないかと質問した経緯はある。</p> <p>再度、執行部に聞いて回答したい。</p> <p>(調査結果)</p> <p>干布公民館建設の設計は、地元の意見を十分取り入れる期間を設けるため、建設の 2 年前に地域の方々の要望を聞きながら予備設計</p>

	<p>説明だった。</p> <p>仮の設計なので、令和 3 年度に正式に基本設計をやるのかと思っていたが、実際は A 社の補助設計が基本設計と言われ、B 社の実施設計へと進み、B 社は大変苦労した。</p> <p>なぜ、この様な流れになったのか。今後、荒谷公民館の改築予定もあるので、影響を考え問題提起をしたい。</p>	<p>を作成した。その平面図を基にさらに検討していただき、要望をほぼ取り入れた段階で実施設計となった。</p> <p>予備設計と実施設計の業者が別になったのは入札の等級格付けが違うことによる。</p> <p>荒谷公民館建設の設計は、このたびの予備設計実施の検証を行い、地元に対して予備設計や基本設計のメリット、デメリットなどを説明した上で進めていきたい。</p>
<p>所 感</p>	<p>○参加人数が少なかったのが反省点である。</p> <p>○議員定数・報酬については、削減ありきではなくという声もあり、市民の意見をもっと聴かなければならないと感じた。</p> <p>○幅広い項目で、議会改革を検討しなければならないと思う。</p>	